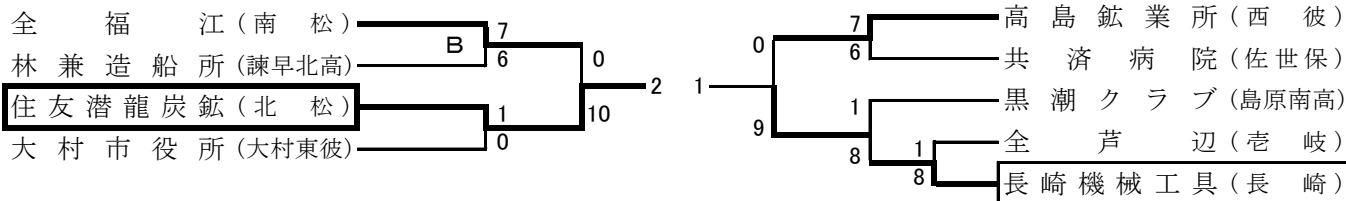


住友潜龍炭鉱が決勝戦で2年連続の長崎勢を撃破して連覇

第5回県下郡市対抗準硬式野球大会

会期：昭和30年11月6日(土)～7日(日)

会場：A・長崎市宮大橋球場 B・長大医学部グラウンド



長崎日日新聞創立65周年記念桑原会長杯争奪県下郡市対抗準硬式野球大会は、各地区予選を勝ち抜いた9チームが大橋球場に勢揃い。午前9時、県警察音楽隊を先頭に軽快なマーチによって役員、国旗、大会旗、プラカードに続いて、前年度優勝の北松・住友潜龍炭鉱を先頭に9チームが満場の拍手に迎えられて堂々の入場で開会式は始まった。

第1日は大橋球場で二回戦4試合、長崎大学医学部グラウンドで二回戦1試合の計5試合を行ない、ベスト4に全福江、住友潜龍炭鉱、高島鉱業所、長崎機械工具が決まった。(昭和30年11月6日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)



【長崎機械工具】打安点

⑦ 栗田 正義	5	2	2
② 林 次夫	2	0	0
⑧ 坂本 健美	4	1	1
⑨5 緒方 進	3	1	0
⑤ 伊藤 弘	2	1	0
94 流川 熊雄	2	1	0
③ 阪 正	3	1	2
⑥ 泉 弘起	4	2	0
① 平 修	2	0	0
④ 橋本 享三	2	0	0
9 茂 實	1	0	0
30 9 5			

【控選手】監督・松浦継義、井口寿栄男、堤和男

【一回戦】大橋：第1試合(開始09:00)振球

長崎機械工具	111 302 0	8	5	7
全 芦 辺	000 100 0	1	6	0

(7回コールド)

【評】芦辺の豊田投手は立ち上がりボールが高めに浮いて制球に苦しみ、球を揃えるところを叩かれ、再三にわたる内野凡失に気力をそがれ、攻めては長崎の平投手のシュートと速球に悩まされてバットが合わず、わずかに四回三遊間安打の太田が遊ゴロ悪送球で二進、三盗後に柳沢の二ゴロ失で選った1点のみで、成すところなく長崎の軍門に降った。

大会スナッフ “激励電報に萬雷の拍手”

○…遠来の老岐チームは敢闘空しく長崎の強豪機械工具の軍門に下ったが、試合終了後、遅ればせながら芦辺町長から激励電報が舞い込んだ。“ユウショウヲキシ ゴケントウヲイノル”。場内アナウンスを聞いてスタンドのファン、この郷土をあげての声援に思わず万雷の拍手。

【全芦辺】打安点

④ 武末平八郎	3	0	0
⑨ 樋口 憲二	3	0	0
② 太田 寿人	3	1	0
⑥ 豊田八真登	3	0	0
① 豊田敬八郎	3	0	0
⑦ 柳沢 寛二	2	0	0
7 山口 健一	1	0	0
⑤ 大川 忠正	3	1	0
③ 西 敏明	2	1	0
⑧ 中尾 信男	2	0	0
25 3 0			

【控選手】監督・柳沢文雄、田中甫、吉富道広、吉川文夫、大曲敏睦

チームの横顔【長崎機械工具】

強豪揃いの長崎地区予選で長崎ガスを破って初出場を果たしただけに相手にとっては中々うるさいチームである。

エースの平は内外角と速球を巧みに使い分けて、アウトシュートで決めてくる正統派投手として貫禄は十分。地区予選で2割8分の高打率を記録した打線で今季は18勝3敗の好成績をあげている。3番の坂本は三振をしない打者で定評を得ており、4番の三浦も3割8分の高打率を誇っている。一方守備陣も内野は若手で、外野は老練で固めるといった布陣で若い平投手を盛り立てている。外野陣の栗田、坂本、緒方は攻撃面でも中心打者として活躍しており肩の弱さも俊足でカバーしている。内野陣も阪主将を中心に橋本、流川、泉と何れも若さにモノをいわせてスピーディな動きを見せており、その活躍はダークホースとして覇権の行方に一波乱巻き起こしそうだ。

チームの横顔【全芦辺】

郡予選の決勝戦で昨年度優勝の郷ノ浦を14-0で撃破して初の代表となった。郡予選が9月末に行なわれたため約1カ月余の練習期間を持ち、今年こそは老岐郡のためにも二日目まで勝ち進みたいと全員火の玉となって猛練習を積んでおり“離島チームは弱い”といわれた批判を覆すに足る粒ぞろいの好チームだ。チームの中心である豊田投手はすばらしい剛速球の持ち主で特に決め球である鋭く切れるカーブは老岐では手の出る者はいないといわれ、最近とみに好調なので船旅の疲れが出なければ長崎勢も一寸戸惑うだろう。内外野ともガッチリとまとまったチームワークで守備も堅いが、僅かにグラウンド難のため外野はバックに弱いようだ。しかし打撃はこれといってキレ目がないのが特徴でどこからでも打ち出せるという、いわば『打撃のチーム』。柳沢監督は“捨て身の構えで試合に臨む”と語る。

【住友潜龍炭鋳】打安点

⑥ 菅 素信	4	0	0
⑤ 土橋 繁雄	4	0	0
⑨ 大浦 康正	4	1	0
① 高野 一郎	4	0	0
③ 深堀 広次	4	2	0
⑦ 平田 智	2	1	0
④ 佐藤 俊則	2	0	0
⑧ 西村 清一	3	0	0
② 福富 政利	3	1	1
2 中野 実	0	0	0
30 5 1			

【控選手】監督・深町弘

【二回戦】大橋:第2試合(開始11:00)振球

住友潜龍炭鋳	000 010 000	1	5	0
大村市役所	000 000 000	0	4	0

【評】両軍投手の好投に淡々たる投手戦を展開。住友潜龍は高野が内角にホップするシュートで要所を締めて守り通し辛勝した。五回の住友潜龍は平田が幸運な左安打に出、続く送りバントで一気に三塁へ。二死後に福富の当たりそこねの遊撃内野安打でラッキーな先制点を挙げた。以後は大村・中尾の外角カーブを打ちあぐんで前年度優勝チームにしてはファイトの乏しい試合運びだった。

一方の大村市役所は老巧の中尾がアウトカーブで好投し、攻めても四回と八回に連安打を放ち得点圏に走者を進めながら、ここぞと思うところで決定打を欠き惜しくも住友潜龍に名を成さしめた。

【二】大浦 深堀

【大村市役所】打安点

② 関藤 稚胤	4	0	0
⑨④ 田口 健二	4	1	0
⑧ 柴山 一巳	4	1	0
⑦ 中島 泰二	3	0	0
⑤ 森林 勝晃	4	1	0
③ 中島 亮一	3	0	0
⑥ 馬場 格	3	1	0
① 中尾 実	3	1	0
④ 佐々木	2	0	0
9 尾崎 国雄	1	0	0
31 5 0			

【控選手】監督・古賀豊次
助監督・谷本守光
小川守

大会スナップ

○…大橋球場第2試合の北松一大村戦は両軍投手の好投に1点を争う白熱戦となったが、特に大村市役所の中尾投手は強豪の住友潜龍打線を5安打に抑える絶妙

のピッチングを示し満場をウナらせた。結局五回に自軍内野の拙守で与えずもがなの1点を献じて敗戦投手となったが、バックネット審判団は「敢闘賞」を贈りその労に報いた。

チームの横顔【住友潜龍炭鋳】

同じ北松の日鉄御橋と肩を並べる強豪チーム。今季25試合で22勝している。昨年の大会で初優勝し2連覇を狙う。菅、土橋、大浦と続く上位打線は昨年の顔ぶれどおり他チームの追従を許さぬ重量感がある。新顔のエース高野は外角いっばいを突く直球と切れ味の鋭いカーブを巧みに使い分ける。救援の大浦は剛球で名コンビ。主将の深堀は今年も必ず優勝してみせると自信の程を示しており、今大会でも優勝候補の一つにあげられる。

チームの横顔【大村市役所】

新鋭というより「老巧」といったチーム。古賀監督が現役の第1回大会で島原ニュースターと四つに組み堂々14回の熱戦を繰り広げた貫禄と粘りは『名門大村市役所』の名をスコアブックに記している。今季は西肥バス、長崎相互、長崎刑務所などをなぎ倒し、全九州BC級大会に出場するなどの実力を持っている。チーム打率は1割8分だが勝率は8割の好成績。投手・中尾の決めダマは内角高目からブレーキかかって落ちるドロップだが速球に頼るなど未完成。

試合捨てぬ闘志 福江、堂々の逆転サヨナラ勝ち

【林兼造船所】打安点

⑨ 石丸 健治	4	0	0
⑧ 石丸 信策	3	1	1
8 吉次 弘章	1	0	0
⑦ 山田 満志	4	1	1
③ 宮地 国広	2	0	0
3 高内 祐郎	1	0	0
① 荒木 省二	5	3	2
④ 岩永 保	2	0	0
⑥ 中本	5	2	0
② 富永 隆昭	3	0	0
⑤ 高内 龍士	3	1	0
33 8 4			

【控選手】監督・灘波秀雄
助監督・山崎富男

【二回戦】長大医学部G(開始10:40)振球

林兼造船所	130 020 000	6	6	8
全福江	000 100 042x	7	6	1

【評】遠来の福江は捨て身の短打戦法が見事に功を奏して初戦をモノにした。先発の植田は立ち上がり制球に苦しみ、カウントを整えようとして何れも好球を痛打されバックの不手際も手伝って前半に早くも6点を失った。

しかし代わった島は林兼造船所の粗雑なバッティングに助けられ、全福江に立ち直りの機を与えた。林兼は二回に石丸信、山田の連続本塁打などで有利に試合を進めながら、救援の島を攻めるに余にも策が無さすぎ、二つの併殺を喫するなど、自らチャンスの芽をつんでいた。

林兼造船所が1点リードで迎えた最終回の福江は、一死二三塁に走者を進め、山下の放った一撃はショートを襲ったが、これを失する間に二者が還って逆転サヨナラで準決勝に進んだ。

【本】石丸信、山田、島

【二】中本、鍵原、山下

【全福江】打安点

⑧ 相良 頼昭	5	1	0
⑥① 島 卯吉郎	5	2	2
② 磯田 剛	5	3	0
④⑥ 山下 壱弘	4	3	2
③ 川口 初善	5	1	2
⑤ 宮本 元	4	0	0
⑦ 鍵原 靖治	4	2	1
⑨ 宮原 岩雄	4	1	0
①④ 植松 和臣	4	0	0
40 13 7			

【控選手】監督・佐藤喜久男
中山巖、北川昭三、川淵始、岩永和男、松本肇

チームの横顔【林兼造船所】

3年連続3回目の出場。地区予選準決勝で国体代表となった長崎刑務所を1-0で破った。工場長自らが野球部監督となってチームの育成に努力するだけあってナインは意気軒昂たるものがある。岩永投手はアウトコース低目をつく球だがスピードが余りないのでコントロールでカバーする。2本柱の荒木は球にムラがあるので打陣を悩ましそう。守備は一応万全の配置だがセカドがやや不安だが、県下A級のチームといえる。

チームの横顔【全福江】

五島鋳山や福江郵便局などの各選手を集めた全福江は、いかにも強豪らしいチームだが、地区予選大会に優勝した福江小学校職員チームの主力選手が今大会に出場できないのと、大きく割れるカーブを武器に予選で活躍した植松投手がスランプのため期待できず、持ち前の短打主義でどこまで林兼造船所に善戦できるかみものだ。

4点差を終回到同点 高島鉦が延長12回を制す

【二回戦】大橋:第3試合(開始13:30) 振球

高島鉦業所	100 001 004 001	7	6	5
共済病院	002 211 000 000	6	1	3

【三】松尾隆

【二】渡辺、宇藤、浮田、松尾隆

(延長12回)

【高島鉦業所】打安点	【共済病院】打安点
⑤ 長崎 末男 3 0 1	⑥ 松尾 隆藤 5 3 0
⑥ 小川 賢三 6 1 1	⑧ 大桑 孝 3 2 0
③7 渡辺 博之 6 2 1	⑤ 松尾 武 3 1 0
⑧ 橋口 勇 5 2 2	⑦ 藤本 博 6 3 0
⑦4 藤本 晴光 6 1 1	③ 徳永 栄 5 0 0
② 河野 光夫 5 3 0	④1 浮田 6 4 1
⑨ 宇藤 康夫 5 1 0	② 若元 敏男 6 0 0
① 春山 次弘 1 1 0	⑧4 松本 千平 6 0 0
1 福島 2 0 0	①85 竹田 博美 6 0 0
1 袴田 3 0 0	⑨ 森山 5 2 0
④ 江頭 宏 2 0 0	51 15 1
③7 福島 嘉蔵 1 0 0	監督・山本洋士
45 11 6	

【評】遊撃手の連失が何れも失点に響いて6-2とリードされた時は高島鉦業所の敗色は濃いものがあったが、九回の反撃が奏功して延長戦に持ち込み、ついに延長12回一死二三塁に三振フリ逃げの捕逸で決勝点を挙げた。初回到2安打と橋口の犠飛で先制の高島だったが、若い春山投手がカウントを整えようとして共済病院打線に痛打され、しかも内野失策が絡んで六回までに6点を奪われ、勝利への望みは薄かったが、再終回到疲れた竹田投手に4安打集中して4点を奪って同点とした。

佐世保・共済病院が折角のリードを守りきれなかったのは、後半にスピードが落ち、カーブの切れも悪くなった竹田を続投させたため、竹田に代わった浮田がその後、かなりの好投を見せていただけに惜しまれてならない。

監督・福島嘉蔵 控・中元勉

チームの横顔【高島鉦業所】

西彼地区予選で宿敵の端島炭鉦を9-2で破っている。投手陣はエース中元が夏の天皇杯予選以来肩を痛めているので今大会では袴田と春山がエースとして期待する。二人とも速球派だが目先の変わる変化球を駆使する福島も控えており投手陣は充実している。攻撃面でも打線に切れ目のないのが最大の強みでチーム打率は2割であるが少ないチャンスを確実にモノにする力を持っている。守備面では平均21歳という若さにものをいわせてムラのない守備陣を見せている。しかし調子に乗りやすいわりに若さを暴露する欠点を持っている。大会4回目出場の経験と、一昨年の大会でベスト4に残ったことでチームに自信がみなぎっている。

チームの横顔【共済病院】

第3回大会で優勝し2年ぶり3回目の出場。佐世保地区Aクラスで他チームに比べ老練で円熟したチームといえる。投手の竹田は正攻法で以前よりスピードは落ちたが円熟味を持ってきた。ドロップとシュートが武器だが、若いためか気が弱くピンチになると時々調子が崩れることがある。打撃面ではよく長打を打ち予選では5割の高打率をあげて好守ともにチームの主力として勝因を担った。リリーフには軟投で技巧派の松本がいる。守備陣は内野は堅いが、外野陣が年齢のせいのか足の伸びが落ちるのが弱みである。

【長崎】打安点

⑦ 栗田 2 0 0
② 林 4 1 0
⑧ 坂本 4 1 0
⑨ 三浦 4 0 0
⑤ 流川 1 0 1
③ 阪 3 2 2
④ 伊藤 3 0 0
⑥ 泉 2 2 1
① 平 1 0 0
1 緒方 2 0 0
26 6 4

【二回戦】大橋:第4試合(開始15:30)振球

長崎機械工具	401 111 0	8	2	5
黒潮クラブ	000 010 0	1	3	5

【本】泉

【二】関

【評】長崎機械工具は初回到栗田の四球を足場に犠打と島原・黒潮クラブ内野陣の混乱に乗じて4点をあげ、早くも優位にたった。その後も泉のランニング・ホームーなどで小刻みながら加点し一方的に黒潮クラブを破った。

島原南高代表の黒潮クラブは、平投手の伸びのあるシュートに封じられ、わずかに五回到代わった緒方から押し出しの1点を奪ったに止まった。攻守にまさる長崎機械工具の勝利は順当といえるが、洗練された試合運びはさすがであった。

チームの横顔【黒潮クラブ】

スケールこそ小さいが、キビキビしたチームで城台主将を中心に良くまとまっている。投手陣は狩野、川田、畑と3本だが不調で完投できず、投手力に絶対的信頼をおけないのは痛い。狩野は球速こそあるが制球力に難があり、川田はドロップとシュートを武器にリリーフ専門としてよく投げているので、結局この二人の登板となろう。守備面は練習不足のため粗雑さはあるが一応は整っている。打撃は大物打ちはいないが、中々シャープで上位、下位とも良く打ち打線に切れ目がなくどこからでも得点のチャンスは作ることができる。

【黒潮クラブ】打安点

⑤ 飯田 正 4 0 0
⑧ 高田 勝門 4 1 0
④ 金子 識 2 0 0
41 狩野 茂樹 1 0 0
⑦ 関 弘人 2 1 0
③4 川田 勝則 2 0 0
4 金子幾十郎 0 0 0
⑨ 福田 学 1 0 0
9 城台 勝行 1 0 0
②3 飯島 健吉 2 0 0
① 滝口 守 1 0 0
2 金子 利政 1 0 0
⑥ 満尾 亘 2 1 1

監督・金子識 23 3 1

秋陽に映えた長崎浦上原頭で二日間にわたり繰り広げられた長崎日日新聞社65周年記念桑原会長杯争奪県下郡市対抗準硬式野球大会は、各地区代表9チームが激闘のすえ、栄冠は

再び北松地区代表・住友潜龍炭鉱の頭上に輝き、銀色燦たる桑原杯は高野主将の手にしっかりと握られた。
(昭和30年11月7日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

植松の立ち上がりを痛打

【準決勝】

振球

住友潜龍炭鉱	701 002	10	2	7
全福江	000 000	0	0	0

(6回コールド)

【住友】打安点

【二】大浦、菅、平田

【全福江】打安点

⑥ 菅	4 1 0
⑤ 土橋	1 1 0
⑨1 大浦	4 3 2
①9 高野	3 1 1
9 福富	1 0 0
③ 深堀	1 0 0
⑦ 平田	4 1 2
④ 佐藤	3 1 0
⑧ 西村	2 1 1
② 中野	2 0 0

25 9 6

【評】住友潜龍炭鉱は初回で試合を決してしまった。全福江の先発・植松の立ち上がりを激しく攻め、一死後に土橋の安打を口火に大浦、高野の長短打で2点。深堀が四球を選んで植松は降板、代わった川淵にも平田が二塁打を浴びせ、内野陣の混乱もあって一挙7点を奪ってその後も攻撃の手を緩めず、三回と六回にも加点して計10得点。これに対して福江は、高野投手のチェンジ・オブ・ペースと三回から代わった大浦の外角を突く直球に牛耳られて3安打を散發したのみ。五回に迎えた一死二塁の唯一のチャンスも後続の宮本と鍵原が打ちとられて万事休した。強豪の住友潜龍に対して良く戦ったが、やはり力不足の感があった。

⑧ 相良	2 1 0
H 中山	1 0 0
⑥ 島	3 0 0
② 磯田	2 0 0
④ 山下	2 1 0
③ 川口	2 1 0
⑨1 川淵	2 0 0
⑤ 宮本	2 0 0
⑦ 鍵原	2 0 0
①9 植松	2 0 0

20 3 0

5安打集中の猛攻 平、好投 高島にスキ与えず

【準決勝】

振球

長崎機械工具	100 110 6	9	3	7
高島鉱業所	000 000 0	0	0	0

(7回コールド) 【三】平

【長崎】打安点

【評】強豪同士の対戦だけに好ゲームが期待されたが、試合は機械工具の一方的試合となった。長崎は高島のエース・中元の立ち上がりの制球難に乗じて連続四球と一塁ゴロで一死二三塁に三浦がスクイズを決めて先制点。三回には内野ゴロ失で、五回は三塁打の平が流川の犠飛で小刻み加点した。ここまでは前日の試合で逆転した例もあり、高島の粘りに期待されたが、七回に二つの犠打をはさんで4安打を集中され3点。さらに代わった福島も遊失と泉の中前打で3点を追加され一方的となった。高島の中元投手は下から浮き上がるシュートと、同じコースから曲がるカーブを使い分けるピッチングは見るべきものがあったが、惜しいことに制球力に不足しており、カウントを整えようとして痛打された。一方、長崎機械工具の平投手はスリークォーターから投ずるスピード豊かなシュートを低めに決めて、高島打線に乗ずるスキを与えず、シャットアウトに退けた。得点の開きほど実力差はなかったが、内野失策が高島の敗戦に輪をかけた試合だった。

⑦ 栗田	3 2 1
② 林	2 0 1
⑧ 坂本	3 1 1
⑨ 三浦	2 1 1
⑤ 緒方	2 0 0
③ 阪	4 0 0
⑥ 泉	4 2 1
① 平	3 1 0
④ 流川	0 0 1

23 7 6

【高島】打安点	
⑤ 長崎	3 0 0
⑥ 小川	3 1 0
⑦ 渡部	3 0 0
⑧ 橋口	2 0 0
④ 藤本	3 1 0
② 河野	2 0 0
⑨ 宇藤	2 0 0
① 中元	2 1 0
1 福島政	0 0 0
③ 福島嘉	2 0 0

22 3 0

昭和30年の全国大会における長崎県代表チームの戦績

天皇賜杯第10回全日本軟式野球大会【50チーム】

(S30. 8. 23～・静岡県)

長崎刑務所【一】 0-2 島田実業(開催地)

第6回西日本準硬式大会【27チーム】

(S30. 10. 8～・兵庫県)

長崎機械工具【一】 6-1 門田クラブ(岡山)

【二】 3-2 三共野洲川工場(滋賀)

【準々】 5-7 南風クラブ(開催地)

第10回神奈川国体【26チーム】 10. 30～

長崎刑務所【一】 0-2 郡山日東紡(福島)

北松 **住友潜龍** 2年連覇の偉業遂げる

長崎機械工具 先制空し、無念の涙

【優勝戦】

振球

長崎機械工具	000 001 000	1	6	4
住友潜龍炭鋳	000 002 00X	2	2	1

【三】栗田【二】土橋、林

【長崎】打安点	【住友】打安点
⑦ 栗田 4 1 0	⑥ 菅 4 1 1
② 林 4 3 0	⑤ 土橋 4 1 0
⑧ 坂本 3 0 0	⑨ 大浦 4 0 0
⑨ 三浦 3 0 0	① 高野 3 0 0
⑤ 流川 4 1 0	③ 深堀 3 1 0
③ 阪 3 1 1	⑦ 平田 3 1 0
⑥ 泉 4 1 0	④ 佐藤 3 0 0
① 平 4 0 0	⑧ 西村 2 0 0
④ 橋本 2 1 0	② 福富 3 0 0
H 緒方 1 0 0	
32 8 1	29 4 1

平の悪投が命とり

幸運の一塁線バント

【評】優勝戦にふさわしい緊迫したゲームとなり最後まで予断を許さなかったが、長崎機械工具は投手・平の悪投で惜しい試合を失った。

住友潜龍炭鋳は高野が先発。初回、死球にバント安打などで一死二三塁に後続を連続三振に打ち取り事なきを得た。三回にも一死一二塁のピンチを迎えたところで大浦と交代し、中軸を凡打させて再度の危機を逃れた。

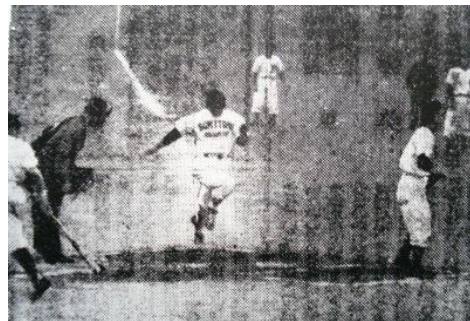
一、三回の先制機を逸した長崎は六回、四球と流川のバントと見せかけて強打した巧妙な内野安打でチャンスをつかみ、投手けん制悪送球の二三塁で、阪がスクイズして1点先取した。

住友潜龍は五回まで、伸びがありしかも重いシュートとスライドする平の投球に1安打に押えられていたが、六回先頭が死球に出て反撃開始。福富の一塁線バントにあわてた平が一塁に悪投し一走の西村が一気に本塁まで駆け込んだ(写真)。福富も三進し、菅の犠飛で逆に1点差をつけた。

福富のバントは一塁線のうまいバントであったが見送っていたらフェールになっていたのではなかろうか。このプレーで折角の好投を自らのエラーでフイにしてしまった。

それでも長崎は、七回には林の二塁打、九回にも奥田の三塁打など激しく襲いかかったが、後続を断たれた。

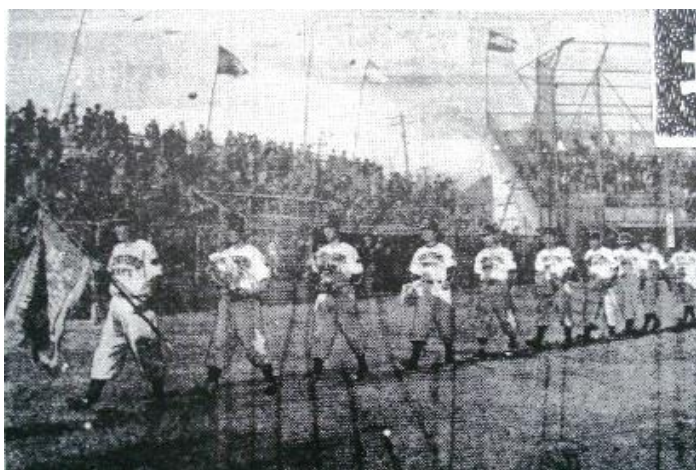
六回裏住友潜龍、福富のバントを投手が一塁悪投の間に一塁から西村が長駆ホームインして同点となる



大会の掉尾を飾る閉会式は午後3時半から行なわれ、優勝チームの住友潜龍炭鋳・深堀弘監督に渡貫大会会長から賞状ならびに紫紺の大優勝旗、さらに高野一郎主将に桑原会長杯、大浦康正選手に読売新聞社杯がそれぞれ授与され、準優勝の長崎機械工具・松浦継義監督にも賞状と賞品が授与された。

個人表彰は、大浦康正投手(住友)が最高殊勲選手賞と優秀投手賞をダブル受賞、首位打者賞は打率5割の泉弘起遊撃手(長崎)、優秀選手賞は流川熊雄三塁手(長崎)と高野一郎投手(住友)、敢闘賞は平修投手(長崎)に、それぞれ授与された。さらに第1回大会から5大会連続出場した土橋繁雄選手に表彰状が贈られた。引き続き渡貫大会会長から

二日間の大会を通じ各地区の榮譽を担った精鋭9チームの善戦健闘が展開され、フェアプレーのスポーツ精神が如何無く発揮されましたことは誠に意義深いものがあると存じます。ここに優勝の榮譽が北松住友潜龍炭鋳チームの頭上に輝いたことはお慶びにたえません、一方敗れたりとはいえ長崎機械工具をはじめ他の各地区代表チームの全力を尽くした立派な試合ぶりは当然賞してよいものと思います。これを機会に各チームにおかれましては今後とも一層の練磨を積まれスポーツ振興に寄与されるとともに社会人としても立派な成長を遂げられんことをお祈りいたします。また本大会に対し積極的強力をいただきました県軟式野球連盟、同審判連盟、また県警察本部ブラスバンド各位に対し



深く感謝の意を表するとともに二日間にわたり連日スタンドから声援をおくれたファン各位に対しまして心より厚く御礼申し上げます

との閉会あいさつがあつて式を閉じた。

閉会後、優勝の住友潜龍チームは県警察ブラスバンドを先頭に熱戦の興奮冷めやらぬグラウンドを一周。スタンドに去りもやらず見守るファンの万雷の拍手は、いつまでも浦上の秋空にこだまして本大会の健闘を祝福した。